

## 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0191500032		
法人名	有限会社 五十嵐水産		
事業所名	グループホーム ゆずりは		
所在地	松前郡松前町字静浦409番地4		
自己評価作成日	平成22年11月26日	評価結果市町村受理日	平成23年2月8日

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0191500032&amp;SCD=320">http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0191500032&amp;SCD=320</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成23年1月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>施設の場所は、国道から少し離れた神社の裏手にあり、騒音とは無縁の静かな環境の中にあります。また、松前町は桜の名所であり、施設周辺にも桜があり、春には花見を楽しめます。</p> <p>前庭には花壇と小さな畑を設け、色とりどりの花を楽しめ、野菜の栽培もしています。</p> <p>自然豊かな松前町は、漁業の町でもあり、食材には新鮮な海の幸を提供できるように努めています。</p> <p>秋には地元松前産のクロマグロの解体ショーを実施しており、利用者を楽しんでいただいています。</p> <p>また、海の幸だけではなく、できるかぎり地元でとれた野菜、山菜なども提供するように努めています。</p> <p>ゆったり穏やかに、のんびり楽しく過ごしています。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>松前町は北海道の最南端に位置し、西は日本海、南は津軽海峡に面し、気候も温暖な歴史のある街である。春には北海道内外から観光客が押し寄せる桜の名所として名高い。「グループホームゆずりは」は、松前町の市街地から少し江差町よりで、国道から川岸沿いに500m程山合いに行っただけの突き当たりである。松前町は北海道の中でも南端に位置しており温暖な土地柄ではあるが、日本海や津軽海峡を渡る北風の強さは半端ではないが、事業所は丁度谷間にあり風を避ける位置にあるので冬も比較的穏やかに生活できる。</p> <p>1ユニット9名の利用者の内、最近3名が入れ替わったが後の6名は開設以来の方々である。介護度5で90才になる利用者は散歩もお風呂も一人でできている。また、94才になる利用者の介護度が下がった事実がある。利用者が元気に過ごされる姿は、事業所の介護が優れていることを示している。</p> <p>今年の秋には増設の企画もあり、優れた介護力を活かして地域密着の運営に期待したい。さらに地域外のボランティアとの交流を深め、利用者を支え、その人らしく地域で快適に暮らす理念に沿って運営されることを期待する。</p>
--

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します				
項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は玄関、食堂、事務室に掲示し、常に思いうかべる様に啓発している。	ゆっくり穏やかに、のんびり楽しく、共に笑顔で、をケア理念とし、玄関、食堂、事務室などホーム内の至る所に掲示し、常に理念に立ち返るよう意識統一を図っている。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	地域の祭り、清掃活動などにも参加し、地域の一員として交流している。	ボランティアが来所する折には、近所の方々にも声をかけて参加を促している。町内会の行事にも積極的に参加し、交流を深めている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域住民に対して認知症サポーター養成講座を開催している。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議での意見、要望等をサービス向上に活かせるように取り組んでいる。	運営推進会議は3ヶ月に1回の割合で開催しており、前回開催の時は次の議題を「口腔ケア」に決めて、地元の歯科医と連携し、次の運営推進会議の準備をしている。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	町役場の担当者とは通達事項があるごとに連絡を取り、協力関係を築くように取り組んでいる。	町役場からは調査依頼などの通達が多いが、適宜連絡を取っている。今秋の増設に絡み、協力関係は強まっている。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員に対して、身体拘束禁止の行為を理解させるため、内部研修を行っている。また、防犯のため、夜9時から翌朝5時までは玄関の施錠をしている。	内部研修も実施しており、身体拘束の事実はない。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止について学ぶ機会はまだ設けていないが、事業所内で虐待がおきないように注意を払っている。		

グループホーム ゆずりは

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度について学ぶ機会はまだ設けていないが、必要性がある場合は活用できるように努めている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は十分な説明を行っているので、理解・納得を得られていると思います。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議または施設を訪問した際に、意見、要望を伺っている。	運営推進会議には家族も参加している。利用者は地元の方たちなので頻りに家族が訪れており、その際に意見や要望を聞くようにしている。	
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議にて意見や提案を聞く機会を設けている。	毎朝の申し送りなどで意見交換している。重要な事項については、その都度会議を開いている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	可能な限り職場環境、条件の整備に努めている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	可能な限り研修を受ける機会を確保できるように努めている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交流する機会はあらためて作っていないが、職員は同業者と相互訪問等を通じて、サービス向上にむけた取り組みに努めている。		

グループホーム ゆずりは

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス開始時点では、利用者の行動、言動に特に注意し、一日でも早く安心して暮らせるための信頼関係づくりに努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用申込みがあった段階から家族の要望等を伺い、信頼関係づくりに努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	常に利用者への支援のあり方については考えており、可能な限り他のサービス利用も含めた対応も考えている。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一方的な介護にならないように、暮らしを共にする者同士の関係づくりに努めている。		
19		本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は、家族と共に利用者を支えていけるような関係づくりに努めている。		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族または親類との交流の機会が途切れないように、外出、外泊が自由にできるように支援している。	外泊を希望する利用者は許可し、その他墓参りに付き添ったり、地元の祭りや花見見学など、馴染みの場所や人との関係を大切に、支援している。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は、利用者が孤立せず、利用者同士が支え合えるように、利用者同士の関係を把握している。		

グループホーム ゆずりは

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了した後も、本人、家族への相談や支援に努めている。		
<b>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中で、利用者の希望等を把握するよう努めている。	元気な利用者の姿が一人ひとりの思いを大切にしていることを伺わせる。歌が好きな利用者が多く、声を出すことが元気の源と、後押ししている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族からの情報及び利用者との会話から、生活歴を把握するよう努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	サービス記録等を利用し、職員間で情報を共有することで、利用者の現状を把握するよう努めている。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議にてケアのあり方について話し合い、現状に即した介護計画を作成している。	毎日の中でモニタリングし、月1回のカンファレンス会議を開いて検討し、6ヶ月に1回のケアプランを立てている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子はサービス記録に記載し、職員間で情報を共有しており、介護計画の作成に活かしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院や送迎等の本人や家族からの要望に柔軟に対応し、個々の満足度を高めるよう努めている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	公共機関をはじめ、民生委員、自警団、ボランティアなどにも、安全で豊かな暮らしができるよう支援していただいている。		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	町立松前病院による月1回の訪問診療を利用している。また、利用者の希望がある場合は、その都度、受診支援している。	月1回の訪問診療の医師は内科ではあるが、身体全般も診ている。受診時には付き添い、適切な医療が受けられるよう支援している。	

グループホーム ゆずりは

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置しており、訪問診療時の支援や、利用者の健康管理に努めている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者とは会議及び訪問診療を通じて連携し、利用者が入院した際には、情報交換や相談に努めている。		
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療機関側の医師及び看護師不足の理由から、十分な連携がとれないため、ターミナルケアは行っていない。	地域的な医療体制もあり、終末期まで看取れるような体制はないが、先般、重度化した利用者をぎりぎりまで介護し、病院に送った後ほどなく亡くなった利用者がいた。	先般の介護事例をその時だけにせず、職員全員で介護・支援の在り方、考え方をまとめて共有し、看取りまでいかなくとも家族に重度化した利用者に対して取り組む範囲を示せるよう、文書化していくことを希望する。
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急な事故に備えたマニュアルは整備しているが、定期的な訓練は行っていない。		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	全職員参加のもと、消防訓練(消火・通報・避難)を行っており、地域との協力体制も築いている。	年2回の避難訓練を実施、その1回は夜間想定で行っている。前回の訓練の時はグループホームでの火災・災害が発生した後でもあり、松前町消防署が全面的に協力し、数台の消防車も参加し放水・消火訓練を実施した。	
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、プライドを傷つけないように言葉かけに注意している。	地元の言葉を交えながらも、過度に馴れ馴れしくならないよう気を使い、利用者に対応している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の思いを感じ取り、分かりやすい言葉で説明し、自己決定できるように働きかけている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れはある程度きまっていますが、出来る限り一人ひとりのペースを大切に、本人と他の利用者が共同で生活できるように支援している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望にそった身だしなみが出来るように支援している。また、理髪は訪問サービスを利用している。		

グループホーム ゆずりは

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や片付けは、出来る限り職員と共同で行っている。また、利用者の食事の好みを考慮し、食べやすい形態で提供している。	元気な利用者が多いので、準備・後片付けは元より、料理してくれる方もいる。食事が楽しみになるよう工夫し、支援している。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	サービス記録により管理し、一人ひとりの状態に応じた支援をしている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施している。また、歯科医師による訪問診療も利用している。		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人別の排泄パターンを把握し、トイレ誘導を行うことにより、排泄の失敗やおむつを減らすように支援している。	時折失敗する利用者もいるが、本人のプライドを傷付けないよう自室にて確認している。車イスの方には時間を見て誘導するよう心掛けるなど支援している。できるだけオムツを減らすよう支援している。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の予防と対応は、主治医に相談のうえ取り組んでいる。		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は週に2回、個別に日時を決めているが、利用者の体調等により、柔軟に変更できるように支援している。	月・木/火・金/水・土と3パターンに分けて入浴日を設定して、その日に入りたがらなくても次の日に入浴を促すなど、工夫しながら個々に沿った支援をしている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの体調を考慮して、その時々状況に応じて休息したり眠れるように支援している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の管理は看護職員が行っており、服薬と症状の変化はサービス記録にて管理している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意なことや趣味を活かした役割をもうけ、張り合いのある日々を過ごせるように支援している。		

グループホーム ゆずりは

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者が希望する場合は、買い物などの外出支援に努めている。また、家族や親類などが訪問の際は、お墓参りや外泊など、自由に出かけられるように支援している。	冬の外出の機会は少ないが、買い物の時などを利用して外出支援している。	外出支援は限られた職員の中ではできにくいと思うので、ボランティアなどの利用を考えてできるだけ外出の希望がある利用者を支援することを期待したい。
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が可能な方は、本人にしてみらい、そうでない方は施設にて管理している。また、預かり金は本人や家族の希望により、いつでも使えるよう支援している。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望により電話は自由に使用できます。また、手紙のやりとりが出来ようにも支援しています。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設内は明るく、常に清潔であるように日々の清掃は欠かさず行い、温度、湿度にも気を配っている。また、季節の花を飾ることで季節感を採り入れ、居心地よく過ごせるよに配慮している。	廊下には利用者や職員、そして訪問した小学生達の作品がたくさん並んでいる。居間は明るく、嫌な臭いもなく快適に過ごせるよう工夫されている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間と食堂は別になっており、廊下にはソファを置き、気のあった仲間同士が過ごせるような場所を確保している。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者や家族と相談し、利用者の使い慣れたものを持ち込めるようにしている。	利用者は自分の使い慣れたものを持ち込んで生活している。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、廊下、浴室の要所には手すりを設置している。また、トイレには呼び出し用のプザーを設置し、安全でできるだけ自立した生活が送れるように配慮している。		



目標達成計画

事業所名 グループホームゆずりは

作成日：平成23年 2月 4日

市町村受理日：平成23年 2月 8日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	現状では運営推進会議の開催は3ヶ月に1度の割合で開催。	運営推進会議の開催は2ヶ月に1度の割合で開催する。	年度計画表で運営推進会議の日程を決めておく。	1年間
2	33	利用者が重度化した場合や、終末期のあり方について、入居時において十分な説明を行っていない。	入居時において、利用者が重度化した場合や、終末期のあり方について十分な説明を行う。	重度化した利用者に対して取り組む範囲を家族に示せるよう、文書化する。	1年間
3	34	利用者の急変や事故発生に備えての訓練を定期的に行っていない。	全ての職員に対し、利用者の急変や事故発生に備えた訓練を定期的に行う。	地元消防署に協力を要請し、訓練を行う。	1年間
4	49	日常的な外出支援は限られた職員の中では難しい。	外出の希望がある利用者には、できるだけ希望がかなうように支援していきたい。	地域のボランティアなどを利用して外出支援する。	1年間
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。